

いよいよ寒さが厳しくなってきましたが、皆さん、勉強は頑張っていますか。3月11日の国家試験本番まで約2カ月間、これからが最後の追い込みですね。クリスマス、お正月と楽しいイベントが続いていますが、お正月が終わったら、シャンパンやおとそでホロ酔い加減になった頭をシャッキリとさせて下さい。ところで今回は、今までと少し趣を変え、国試対策について、ちょっと真面目にお話ししたいと思います。

総論

過去問5年分を徹底チェック
勉強する科目の順序も要注意

まず、この時期の学習の仕方ですが、卒試もあることなので、国試対策だけに集中するわけにもいかないでしょう。でも、できるだけ早めに、過去問5年分を2〜3回はチェックして下さい。さらに自分の苦手な科目も、そろそろ把握できている時期でしょうから、その科目を重点的に勉強しましょう。

その後は各科目の再確認に入りますが、勉強する科目の順番には、特に注意を払って下さい。今や大昔のことになりましたが、私の例を挙げますと、後回しにしたのは衛生薬学、生薬といった、いわゆる「暗記」が重要なウエイトを占める科目で、薬物動態や物理系など、論理が分かっているか解けないような科目を先に片付けました。ただし、薬理学や疾病と治療は、毎日必ず目を通したことは言うまでもありません。なお、薬事関係法規は、2月20日過ぎから始めたのを覚えています。

最終的に「あとは何をすればいいんだろう」となったら完成です。いつでも国試を受けられる状態になったと思ってください。

出題領域ごとのポイントと目標点数

各論

◇基礎薬学(目標点数45点)

①有機化学：新規傾向問題は出し尽くした感があります。過去問をしっかり理解し、基礎学力を身に付ければ得点可能です。

②分析化学：スペクトルなど、図を使用した問題が出題されます。難易度は高いと言わざるを得ませんので、失点は最小限に食い止めましょう。

③物理化学：分かる人は解ける、分からな

い人は手も足も出ないという両極端な出題です。論理を理解して、糸口を発見できるように努力しましょう。

④生薬学：生薬の特徴、処方、構造などが出題されます。生薬の種類に比べ、出題数は2〜3問と少ないため、ここに時間を割くのは効率の点でどうかと思います。薬理の知識である程度カバーできるので、他に時間を使いましょう。

⑤生化学：三大栄養素、核酸、酵素関連の出題ですが、難易度は低いので、完答を目指しましょう。

⑥機能形態：神経系、各臓器、ホルモン関連の出題です。薬理、疾病の勉強をしていれば、全く心配のない範囲です。

⑦分子生物：細胞、遺伝子、バイオ関連ですが、特に遺伝子分野は出題数が増加傾向です。ただ得点は十分できますので、安心しましょう。

⑧免疫学：3〜4問程度の出題で、満点が条件です。というのも、免疫を理解すると疾病の自己免疫疾患、腫瘍、アレルギー等の範囲でも十分に得点できますから、総合的に学習することが必要です。

⑨その他：基礎薬学ではこのほか、放射線関連や微生物が出題されることもあります。

◇衛生薬学(目標点数32点)

①食品衛生：添加物や食中毒、エネルギー関連等の出題ですが、難易度は決して高くありません。むしろ国試全体では、一番やさしいレベルですので、完答が必須条件になります。

②公衆衛生：話題の感染症や人口動態などが範囲になります。新聞やニュースを見れば、問題なく解答可能です。

③環境衛生：衛生薬学の中で最も出題数が多く、点数に差が出る分野です。決して難しくはなく、知っているかいないかで勝負が決まります。しっかり問題を読み、いい意味での“勘”を働かせ、高得点を目指しましょう。

◇薬事関連法、制度(目標点数18点)

今年は特に薬事法が改正されたこともあり、改正点は要チェック。問題文の非常に長いものが多いので、読解力が試される、国語

国家試験

本番直前の勉強法

薬剤師国試研究家 續 ひかる

のような問題です。ただし、ここは高得点が望めますから、集中力を切らさず、問題文に惑わされないようにしましょう。まずは「文章はすべて誤り」として、間違い探しをするように読んでいくのも一つの方法かと思えますよ。

◇薬理学(目標点数22点)

薬剤師として最も必要な分野なので、ここで点数を取れないのは、恥ずかしいことだと思います。全般的に出題されますので、偏った勉強は危険です。万遍なく、各器官系をクリアしていきましょう。

◇薬剤学(目標点数23点)

①薬物動態：計算問題あり、論理的問題ありと非常に幅広く、かつ得意・不得意が極端に現れる分野です。さらに時間配分も重要になってくる部分なので、ある意味でキーポイントと言えるかもしれません。早い時期に仕上げておく必要のある分野です。

②物理薬剤：さほど目新しい出題は、今後もないように感じられます。過去問をしっかり



お問い合わせ・受付
求人情報掲載中
0120-013-969
http://www.krasys.co.jp

就職の成功を支援いたします。

豊富な求人情報
個人の就職活動では入手困難な求人情報も全国から多数よせられています。

登録から紹介まで一切無料です
キャリアアップが実現するまで、何度でもご相談ください。当然、プライバシーの保全には万全を期しております。

万全な体制でバックアップ
ご経験や能力をフルに発揮できる最適なお仕事を責任を持ってご紹介いたします。

薬剤師派遣スタッフ 同時募集

「好きな時間に働きたい」「いろいろな職場で経験を積みたい」などご自身のスタイルでお仕事を選べます。スキルが活かせる分野で思いっきり活躍してください。

クラシス 株式会社
厚生労働大臣許可(般13-010613)(13-ユ-010302)
東京本社：〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-10-10 矢野ビル2F
大阪支社：〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町14-22 シティビル梅田6F

り理解しておけば、ほぼ満点を取れるでしょう。

③製剤学：基礎知識で十分得点可能な分野です。暗記部分が多いので、しっかりと覚えましょう。

◇疾病と治療(目標点数22点)

疾患が生じる原因、疾患の症状、治療法という一連の流れで問題が作成されます。そのため1つの疾患に関して、総合的な知識が要求されます。疾患は山ほどありますが、実際に出題されているものは、それほど多くありません。勉強する上では、過去問を見ながら重要な疾患とそうでないものを分けることも、大切なポイントになります。思ったより点数が取れる分野なので、取りこぼしのないようにすることが肝要です。

◇実務関連(目標点数20点)

国試全体の中で、最も点数が取りにくい範囲ではないかと思われます。治験に関することから症例検討的な問題まで、バラエティーに富んだ出題がされます。薬剤師としての資質を問うといっても過言ではない分野で、2

日目の午後という最後の最後に、最大の難関が待っていると思って下さい。特に症例検討的なものは今後、増えると考えられますので、発展的な理解力を身に付ける必要があるでしょう。

合格発表日の笑顔を信じて

こんな感じで国試の傾向と対策を述べてきましたが、何はともあれ、バランスのとれた学習が大事だという結論になるかと思えます。

今後、薬剤師の重要性を世間にアピールするためにも、国家試験を単なる“試験”と考えず、“試験勉強すること自体が、社会貢献につながるんだ”くらいの気持ちで取り組んで下さい。

最後に、合格発表の日には、皆さんの笑顔と歓声が各地で見られることを、心よりお祈りしております。

新設薬大、4月に5校

文科省審議会が答申

大学設置・学校法人審議会はこのほど、2006年度の大学・学部設置等について、文部科学大臣に答申した。また、私立大学等の収容定員増加に係る学則の変更予定も公表した。これにより今年4月に、5つの薬科大学・薬学部が誕生することが確定した。

来年度に新設される薬系大学は、

- ①横浜薬科大学：所在地＝横浜市、定員＝薬学部360人(健康薬学科120人・漢方薬学科120人・臨床薬学科120人)
- ②高崎健康福祉大学薬学部：高崎市、薬学科90人
- ③大阪大谷大学薬学部：富田林市、薬学科140人
- ④松山大学薬学部：松山市、医療薬学科160人
- ⑤長崎国際大学薬学部：佐世保市、薬学科120人

—である。

このほか、定員の増減にかかる許可申請に対しても、今年度3回目の答申がなされた。定員を20人削減する東京理科大学以外は、国際医療福祉大学、神戸学院大学、九州保健福祉大学とも増員する。

なお、来年度に6年制と4年制を併設する等の理由で定員を増やすのは、青森大学(20人)、東北薬科大学(20人)、国際医療福祉大学(30人)、共立薬科大学(10人)、近畿大学(30人)、武庫川女子大学(70人)、神戸学院大学(40人)、徳島文理大学香川薬学部(20人)、福岡大学(50人)、九州保健福祉大学(80人)の10校。

定員は4年前の5割増に

薬学部の定員は既存大学10校で350人、新設5大学を合わせると1220人の増加となり、全大学で1万2760人に膨れ上がる。これは、薬大の新設ラッシュが始まる前の2002年度(8380人)と比較すると、1.5倍を超える。

少子化の進行、6年制教育のスタートという状況の中で、薬科大学にとっては、これから受験生・入学生をいかに確保するかが、経営面の重要な課題になる。特色を打ち出し、他大学との差別化を図る取り組みが、さらに活発化してくることは確実だ。薬科大学も“大競争時代”に突入する。

熊本大学薬学部(学部長小田切優樹氏)は今年4月に、全国の薬学部としては初めての「創薬研究センター」を設置する。医薬品の研究から開発まで、あらゆる分野の専門家を在籍させ、学内の研究者が保有するシーズを基に、熊本大学発の医薬品開発を目指していく考えだ。

センター最大の特徴は、研究支援室と開発支援室からなる医薬品開発部門。合成、構造解析、スクリーニング、製剤、体内動態などの研究分野と、臨床試験、特許、市場調査などの開発分野に、それぞれ専門家を配置してバックアップ体制を敷く。

学内研究者が持つ医薬品シーズを、センターが自力で臨床試験前期第Ⅱ相まで行い、その後の開発権をベンチャー企業へ移行させたり、必要な研究が行えない地元中小製薬企業と共同研究を進めながら、新薬開発を後押ししていく。

立ち上げ当初は、「人工血液の開発」(小田切教授)、「癌温熱療法の増強剤の開発」(甲斐広文教授)、「副作用の少ないNSAIDsの開発」(水島徹教授)などのプロジェクトを動

かしながら、地元の阿蘇製薬、ニプロ、LTTバイオファーマが開設している寄附講座とも協力して、学内外から新薬開発に取り組む。

一方、来年度に新設する創薬・生命薬科学科(4年制)や大学院薬学教育部とも連携をとりながら、即戦力になる創薬研究者の養成にも力を入れ、製薬会社のニーズにも応えていく。

センターは薬学部図書館棟の3階1フロアを改装してスタートさせるが、2～3年後をにらみ、薬学部敷地内に独立したセンターを建設する考えもある。その際には行政、地元企業の支援も仰ぎながら、GMPに準拠した研究所(工場)を設置し、地元企業を支援する構想も視野に入れている。

初代センター長に就任予定の水島教授は、「価値の低いターゲット分子を価値あるものに生み出していく、そういう基礎と臨床の橋渡しの役割がセンターにはある。そのため医薬品開発コンサルタントのようなビジネスになり得る可能性もある」と将来を描く。センター自身が、外に開かれた新しいタイプの製薬会社(ベンチャー企業)へ移行する可能性も秘めている。

熊本大学薬学部 地元の製薬企業とも連携

「創薬研究センター」設置へ 目指すは大学発の医薬品開発

薬物療法の安全性と 地域医療の向上のために… 望星薬局



「薬物療法の安全性、有効性を確保するためにその責任の一端を担い、医薬品の適正使用、薬物療法の改善、向上に寄与することにより社会的使命を果たす」ことを企業理念として掲げております。また、常に業界のリーディングカンパニーを目指し、先駆的な役割を担い、最先端の薬局の創造を心がけ、薬局システム、薬剤師の教育、研究などあらゆる面での新しいものへの挑戦を行っております。

- 募集職種：** 薬剤師資格取得予定者
または薬剤師有資格者
(修士を含む)
- 初任給：** ※平成16年度年収実績
365万円以上(大卒)
385万円以上(修士了)
- 交通費：** 全額支給
- 休日：** 4週6休、祝・祭日
特別休暇(年6日)
年末年始(6日)
慶弔、有給休暇(10～20日)
- 昇給：** 年1回
- 賞与：** 年3回(5ヶ月)
- その他：** 各種福利厚生、教育研修



株式会社 望星薬局

〒104-0044 東京都中央区明石町11-15

【連絡先】 人事課/浦本太一郎
E-mail: jinji@bohseipharmacy.com
TEL: 0463-91-4193

URL: http://www.bohseipharmacy.com